



道 歯 技 広 報

The Bulletin of the Hokkaido Dental Technologists Association

2022 Winter No.26

- 巻頭言 「2040年を見据えた歯科ビジョン」
- 「第162回北海道歯科技工学術研修会」報告
- 「IOSデータを用いた歯科技工の流れ」後編 札幌歯科技工士会 大徳拓也
- 「第163回北海道歯科技工学術研修会」報告
- 釧路 ハンズオンセミナー報告 釧路歯科技工士会 会長 清水 寛
- 「地域組織会長に聞く」 岩見沢歯科技工士会 会長 中林 義貴
- 「諸先輩に聞く」 空知歯科技工士会 杉岡 範明
- 「プロフェッショナル」 札幌歯科技工士会 米塚 貴博
- 「歯科技工における手話表現・見える言葉」 札幌歯科技工士会 工藤 三重子
- お知らせ：新型コロナウイルス感染症について/メーリングリスト登録について/
Twitter 開設について/学術論文募集について
- 理事会報告
- 編集後記
- 活動・会員特典の紹介

PC用ホームページ <https://www.dougi.or.jp/top.html>

携帯用ホームページ <https://www.dougi.or.jp/keitai.html>

表紙 / 巻頭言 / 諸先輩に聞く / 手話表現 / 編集後記写真 札幌歯科技工士会 海津雅隆

2040年を見据えた歯科ビジョン

～令和における歯科医療の姿～

2020年10月15日、日本歯科医師会は「2040年を見据えた歯科ビジョン～令和における歯科医療の姿～」を刊行し、ホームページに掲載しています。歯科医療提供者は、これまで「う蝕予防活動」や「8020運動」など、国民の皆様の健康増進に向けた取り組みを精力的に進め、成果を上げてきました。しかし、その一方で近年の急激な少子高齢化により、我が国が誇る国民皆保険の維持に困難が生じ、同時に人生100年時代にいかに健康な老後を確保するかも課題になっています。そこで「超高齢社会において歯科医療の果たすべき新しい役割と責任」について議論を重ね、その中で「口腔の健康が全身の健康に密接に関係する」という多くの知見を得たことで、歯科医療と口腔健康管理が、超高齢社会で求められる「健康寿命の延伸」にドラマチックに貢献できると確信し、新たに20年後の2040年を見据えた歯科医療のあるべき姿を描いたのが、この歯科ビジョンです。

このビジョンには5つの柱があります。

- ①健康寿命の延伸に向けた疾病予防・重症化予防に貢献する
- ②地域を支える歯科医療を推進する
- ③質が高く効率的な歯科医療提供体制を確保する
- ④個人の予防・健康づくりをサポートする
- ⑤多様なニーズに応え社会貢献を果たす

※③「質が高く効率的な歯科医療提供体制を確保する」の中に歯科技工士不足、育成に関しての記述があります。

歯科医療の提供においては歯科衛生士・歯科技工士が果たす役割は大きいものの、両職種とも養成校への受験生確保が困難な状況が続いており、実際の歯科医療現場でも人材不足が起きています。この先、生産年齢人口の減少が2025年以降さらに加速することを踏まえれば、両職種の人材確保及び人材育成に向けては早急に対策を打つ必要があります。

今後の歯科技工士不足への対策として、ICT 活用等による業務の効率化を図るべきことは言うまでもなく、義歯等の歯科補綴物の活用による口腔機能の維持・向上が必要とされる高齢患者の増加により、歯科技工の分野は多様化する可能性があります。しかしながら、歯科技工士は歯科衛生士と異なり、歯科医師の診療補助業務が法律上認められていないため、業務内容は限られます。今後、歯科技工士の立場から、患者のニーズに対してきめ細やかに対応していくためには、歯科医師との緊密な連携や情報共有できるような体制を構築しておくことは必要不可欠で、2040年を見据えた歯科ビジョンに歯科技工士の存在を更にクローズアップさせる何かを考えることが必要なのではないだろうか？



● ● 第 162 回北海道歯科技工学術研修会 開催報告 ● ●

公益社団法人北海道歯科技工士会 常務理事 政氏 勲

2022年9月10日に北海道歯科技工士会館を会場に第162回北海道歯科技工学術研修会を対面とオンラインを同時に行うハイブリッド形式で開催致しました。

講師は、北海道大学大学院歯学研究院准教授の上田康夫先生と北海道大学病院医療技術部特定技術部門生体技工部の若林侑輝先生に登壇いただきました。

講演Ⅰでは若林先生に『デジタル技術の活用から展望-CAD/CAM インレーの保険収載をふまえて-』と題して講演いただきました。

ご自身が臨床現場において、検証と経験から得られたデジタル技術に関わるお話を失敗談も交えながらその原因についても考察いただき、大変わかりやすく解説いただきました。

特に北海道大学病院に勤務されていることからCAD/CAM クラウン、インレーにとどまらず、スプリントやデンチャーの分野でも効率的なデジタルの活用をなされております。その先進的な取り組みは大変勉強になるお話でした。

若林先生は既に北海道において3D プリンターの第一人者と言っても過言ではない程の経験値をお持ちになられており、今後も更なるご経験と検証を重ねていかれると思います。今後の講演も是非楽しみにしたいと思います。

講演Ⅱでは上田先生に『デジタル技術の歴史と将来への夢-これから押さえておくべきデジタル技術のポイントはどこか-』と題して講演いただきました。

歯科界のデジタル化に最初期からご尽力されてきた上田先生のお話は、デジタル化の歴史、変遷の解説からはじまりをひとつひとつが、深いお話をしてくださ

いました。

特にダイコムデータやSTLデータの解析についてのお話は、上田先生ならではのお話でした。さらに歯科大学の学生に対してのデジタル授業への取り組みや今後の展望についてご教授いただきました。

印象に残っているお話として、失敗を恐れずに挑戦を続けることが成功に繋がっていく。デジタル化によるメリット、デメリットを見極めて、さらにその先を考えながら患者様にとって最善の治療ができる取り組みが大事。ともお話してくださいました。

お忙しいなか、北海道歯科技工士会の研修会に登壇いただきました上田先生に改めて感謝をしたいと思います。

最後になりますが昨年の地域会長懇談会で承認をいただき、この度の第162回北海道歯科技工学術研修会は担当地域を岩見沢歯科技工士会、運営を北海道歯科技工士会が承り、北海道歯科技工士会館を会場に対面とwebのハイブリッド形式で開催を致しました。このような開催形式は初めての試みで、岩見沢歯科技工士会の中林義貴会長にも当日は会場にお越しいただきご挨拶をいただきました。

デジタル技術の発展に伴い、今後も地域の実情や要望に応じた様々な形式での研修会運営は可能になって参ります。

北海道歯科技工士会としては、地域会長を中心とした地域の皆様と共に研修会を運営して参りたいと思いますので、今後とも北海道歯科技工士会の研修会運営にご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



● ● 「IOS データを用いた歯科技工の流れ」 後編 ● ●

札幌歯科技工士会 大徳 拓也

前編では歯科医院とのIOSデータのやり取りから保険CAD/CAM冠のCADデータ作成について報告したが、今回はサポートの付与が難しいインレーの場合のサポートの付与方法の工夫とモデルレスに対応した歯科医院からのフィードバックの方法について報告する。

5. サポートの工夫

図18. データは完成したが、このままだと隣接面にサポートを付与することになりコンタクト面がつぶれてしまう。加工後の調整時間に影響が出るため、できる限りコンタクト面に干渉しないようにサポート植立用のアタッチメントを作成する。フリーフォームの修復物を選択して次へを選択する。

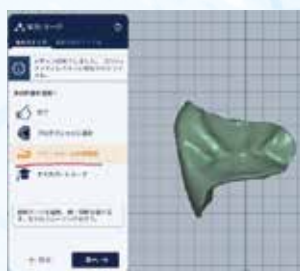


図19. アタッチメントのライブラリの中から緑色の「generic」を選択。

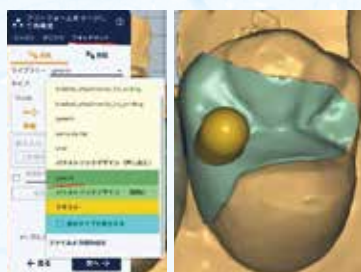


図20. 「スケール」を選択し、ctrl+shiftキーを押しながらマウスで平たく形成する。



図21. 「回転」を選択し、マウスのみで軸面方向に回転、ctrl+マウスで自由方向に傾ける。



図22. 「移動」を選択し、コンタクトに被らない位置まで移動する。この時下面からも目視し、アタッチメントが内面まで貫通していないことを確認する。

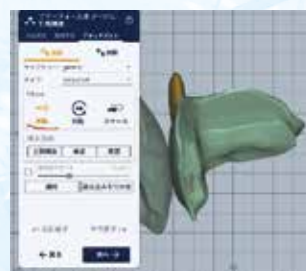


図23. このようにアタッチメントが貫通したままだと、そのままの形で出来上がってしまうので注意が必要である。

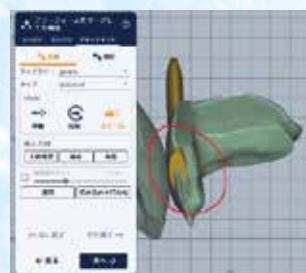


図24. 最終的な位置が決まったら「適用」を選択し、アタッチメントが黄色から灰色に変わったら終了となる。



5. ネスティング

図25. アタッチメントにサポートを立てる。コンタクトに直接植立しないので、ある程度コンタクト面を崩すことなく維持できる。

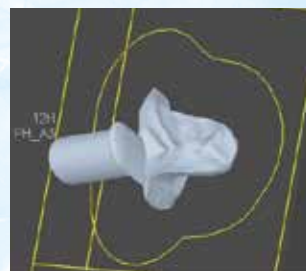


図26. 後で患者名、配置場所、材料が合っているか確認するために「パスの確認」にチェックを入れる。



図27. 配置されたパターンをクリックするとウインドウ右側のデータ名が強調されるので、そこで患者名と材料と配置が合っているか確認できる。

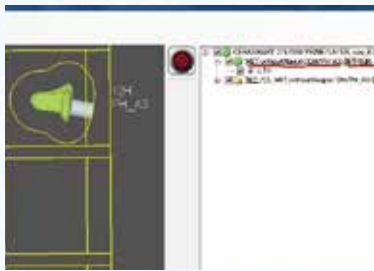


図28. ブロックのジグに患者に対応する数字を書く



図29. ブロックの空き箱をAadvaのホルダーに見立てて仮配置する。一日の切削量が多い場合は、加工の待ち時間にこれにセットしておけば、そのままホルダーにスライドさせるだけでセッティングを終えられる。



図30. 削り終わったパターンの内面に油性ペンで数字を書く。他に良い方法がありそうなのだが、現状これくらいしか思いつかなかった。研磨洗浄後、納品直前の内面サンドブラスト処理と併用する事にしている。セラスマート（ジーシー）以外のブロックで試したことはないが、問題なくきれいに落ちる。



図31. 補綴物の納品準備が完了した状態。内面のサンドブラスト処理を済ませてスチーマー洗浄したら直にケースに入れ、あらかじめ患者の名前シールを貼っておいたチャック付きポリ袋にトレーサビリティシールと一緒に入れている。



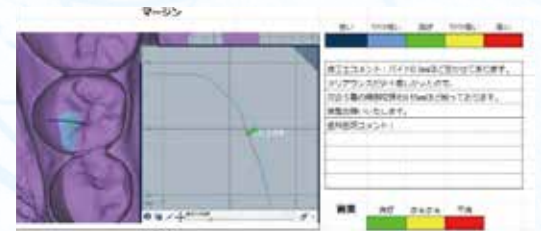
6. フィードバックシート

図32. 納品時に一緒に渡すフィードバックシートを示す。

コンタクト、バイトの数値、形態の画像などを記載している。歯科医院にフィットやコンタクト調整などの評価を記入していただく。パラメーター設定の変更の判断材料となる。(歯冠長が短い場合はセメントスペースを狭めるなど)



図33. また、データ上で対合歯を削合した場合、どの程度削合したか分かるように、削合前と削合後のデータをマッチングさせた画像を載せている。この比較画像は依頼医から非常に好評であった。



7. IOSデータで対合歯を削合した場合

図34. エキスパートモードにて対合歯に右クリックして「手でブリッジをフリーフォームにします」を選択。

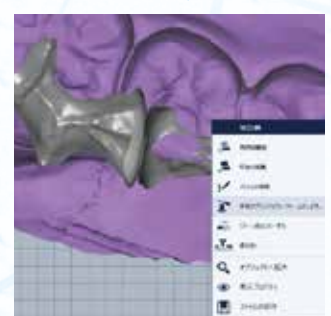


図35. 画面左上の「表示、非表示」一覧から任意の歯式を選択し、「インレー内面」「最小厚み」「インレーキャビティ」を非表示にし、「インレー」のみを表示する。対合歯がインレーの表面を貫通しているのが見えるようになる。

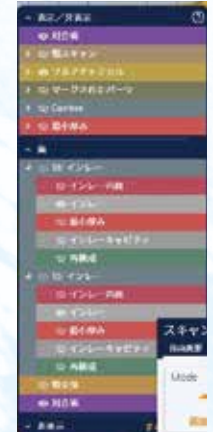


図36. 対合歯がはみ出た部分を少しずつ削除していく

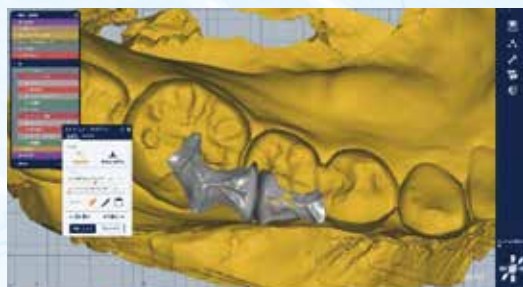


図37. 画面右上の「その他のツール（スパナのマーク）」から「メッシュの追加、削除」を選択



図38. 「読み込み」から同じ対合歯のデータを選択する。画面上の紫の対合データは先程咬頭を削合したものだが、これから読み込むデータは、削合前のデータの色違いなので、削合部分だけ色が変わる。



図39. 上を選択して読み込みを完了する。

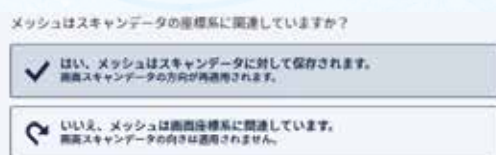


図40. 追加したデータを右クリックして「処置前モデルの配置修正」を選択。



図41. 画面右側の「Open or close cut view」を選択して断面図を見ながら、マウスでZ軸方向（垂直方向）にのみ動かして丁度良い位置を探る。自動でマッチングもできるが、削った量が微量だと視覚的に分かりづらいため、今回は手動にした。

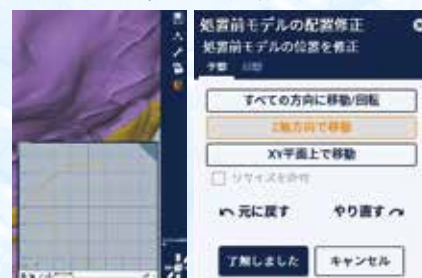
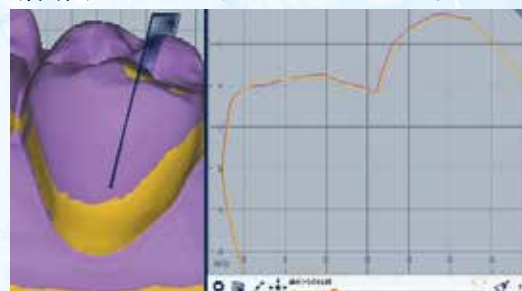


図42. 削合部位を確認できて便利



図42. 断面図はおおよそマッチしている。



8. おわりに

今回、IOSを応用したデジタルデータによる技工物製作についてのチェアサイドとラボサイドのやりとりについて、保険CAD/CAMインレーを用いて、検証してみた。従来の作業模型をスキャンして行う歯科技工CAD/CAM操作と違い、模型レスで行う作業の難しさについて身をもって体験することができた。デジタルデータのダウンロードは作業模型の輸送時間の短縮に繋がるなどメリットも多い反面、依頼医との細かなやりとりが重要になってくることが予想された。

いずれにせよ、以前にも増してチェアサイドとラボサイドの連携によるすり合わせが成功の鍵を握っているのは言うまでもないことである。今回の検証が来るべきIOSの保険導入に向けて少しでも皆様の参考になれば幸いである。

なお、今回の検証は、アナログ印象とデジタル印象（IOS データ）の両方を行っていただき、検証を行ったことを付け加える。

● ● 「第 163 回北海道歯科技工学術研修会 開催報告」 ● ●

公益社団法人北海道歯科技工士会 常務理事 政氏 勲

2022年10月29日に釧路歯科医師会館を会場に第163回北海道歯科技工学術研修会を対面とオンラインを同時に行うハイブリッド形式で開催致しました。

講師は、カナダ在住 Signature Dental Lab の横田浩史先生と日技認定講師で有限会社タマデンタルサービスの藤井未来先生に登壇いただきました。

講演Ⅰでは横田先生に『ペイント番長の3回焼成ステイン法～コロナ収束後の歯科技工～』と題して講演いただきました。

横田先生は既にご存知の方も多いかと思いますが、カナダ在住の方で、世界で活躍をされている日本を代表する歯科技工士のお一人になります。今回で3回目の来道でお忙しい中、北海道歯科技工士会の研修会にて講演をいただきました。前は2019年に小樽で講演をしていただき、翌日に北海道歯科技工士会主催の実技研修を実施致しました。その間の新しい症例も今回ご紹介いただく事が出来ました。また、釧路歯科技工士会主催で10月30日には実技研修会も実施されました。

デジタル化の普及に伴い、ジルコニアをこれまで以上に患者様が選択される機会が増えました。ステイン法の理論と技術は今後も必要となつて参りますので、今後も多くの会員の皆様に横田先生のお話を聞いていただきたいと感じました。

講演Ⅱでは藤井先生に『私が今、歯科技工士に必要なだと思うこと～歯科技工士としてのブランディング～』と題して講演いただきました。

藤井先生は「勤務歯科技工士」「女性歯科技工士」としてご苦労重ねてこらましたが、その様な中でも勉強会に時間を作り参加をし、そこでの出会いを得て現在の自分に繋がっている。とお話をされておりました。

人との出会いがとても大切で自身の成長に繋がっていくのだと実感致しました。

藤井先生に登壇いただいた講演Ⅱで器材トラブルがあり、講演を一時的に中断させていただきました。オンライン配信を現地会場に持ち込んでの配信は、当日現地にてトラブルに見舞われることが多く、都度担当役員を中心に検証と改善をしておりますが、今後も何かしらのトラブルは考えられますが、ご理解、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今回会場を温かくご提供くださいました釧路歯科医師会様、事前の様々な研修会準備などご尽力いただきました清水会長並びに釧路歯科技工士会役員の皆様に心より感謝を申し上げます。



横田浩史先生ハンズオンセミナー 『ペイント番長 Come To 釧路』を終えて

釧路歯科技工士会 会長 清水 寛

去る10月30日にペイント番長こと横田浩史先生を講師に迎え、釧路歯科技工士会主催のハンズオンセミナー『ペイント番長 Come To 釧路』が開催されました。一昨年に企画されたこのセミナー・・・残念ながらコロナで中止を余儀なくされ、今回漸く開催の運びに。

会場は前日に学術研修会が行われた釧路歯科医師会館。大講堂をお借りして十分なスペースと換気を行い15名の参加者で10:00～16:00時の1Dayコース。参加者の多くは前日の横田先生の講演も受講しており、『ペイント番長』の人気と、近年広く普及しているモノリシックレストレーションのステイン法による審美表現への関心の高さが窺えます。さらに前日講師を務められた藤井未来先生も受講生として参戦!「男祭り」に成りがちな処に花を添えて下さいました!

セミナーはスライドによるレクチャー⇒講師によるデモ⇒実践⇒焼成の順で進行。デモは参加者全員横田先生の周りに集まり、皆真剣な表情で見入ってました。2014年から陶材築盛を行っていないと云う横田先生・・・滑らかな筆さばきで、いとも簡単にステインでジルコニアクラウンに生命感を吹込む技はまさに圧巻!

今回は私も参加させて頂いたので、席に戻り実践するも、まったく思うような表情は作れず・・・ステイン法とは言え、単純に着色を施す訳ではなく、横田先生の提唱する「最薄で最大の成果を出す表面ステインテクニック」は高い技術力と卓越した美的センスによって成立することを身をもって体験する事と成りました。又、今回セミナー中のアクシデントもありましたが、ペイント番長の神対応により、参加者全員終始楽しく和やかなムードで時を共有することが出来ました。今回のセミナーはペイント番長 横田先生の素晴らしい技術とフランクな人柄を感じた非常に有意義な体験と成りました。

又、今回は釧路歯科技工士会の主催ながら、地域だけではなかなか困難な部分を北海道歯科技工士会でフォロー頂いた事により円滑な運営が出来ました。この場を以って心より感謝申し上げます。最後に2日間に亘り素晴らしい会場を提供頂いた釧路歯科医師会に心よりお礼申し上げます。



「岩見沢支部会のこれまで」

岩見沢歯科技工会 会長 中林 義貴

岩見沢支部会は、現在の北海道歯科技工士会 扇 照幾会長、北海道社会貢献賞「優良医療職員」を受賞された狩野二三夫会員などこれまで多くの先輩会員が在籍し、地域歯科医療を支え、尽力いただいております。

岩見沢市は近隣市町村と合併し一時は9万人を超えていましたが現在は8万人を切る急激に減少傾向にあります。高齢者人口層が増え逆三角形の人口構成となりました。とは言え患者さんが減るわけではなく我々の歯科技工も続きます。そのなかで、近年進む歯科医療のデジタル化にあるように、先端技術を駆使するため個々のスキルアップも必要であります。地域の技工士会として市民に何ができるのか、考える事も必要だと思います。

岩見沢支部会が行ってきた市民への歯科技工士を、アピールする活動はこれまでは漠然と歯科医師会からの依頼協力事業をメインに活動をしていましたが、年数を重ねるごとに、様々視点を変え市内歯科医院への石膏講習会や衛生士会での講演、岩見沢歯科技工士会独自の活動を行ってきました。そのなかでも、長年活動してきた全国的に取り組まれている「8020運動」があります。地域レベルでの活動が行われていますね、岩見沢では「健康祭り」という医療系のイベントと数年前より同時開催となり、大きなイベントとなりました。我々も歯科医師会、歯科衛生士会と手を組み、長年活動しております。近年はそれぞれの会も会員減少もあり、大きな活動は出来ませんが、これまで、技工物展示はもちろん、会場での技工のデモンストレーションや来場者に技工作業を体験してもらう体験型展示、学生の作品を会場展示、市民講座を開催したりと、多様な事業を展開してきました。



「8020健康祭り」では、均等に割り当てられた歯科技工士会ブース・歯科医師会ブース・歯科衛生士会ブースで活動します。我々は来場していただいた市民に「岩見沢歯科技工士会」と名前が入ったオリジナル歯ブラシスタンド製作してもらい、持ち帰ってもらうという事業を展開。まずは市民に我々の「職業」を少しでも知っていただきたい思いで考案しました。これが思いのほか大盛況で、初年度は（思い切って！）100個用意してみましたが開始後1時間半で即終了という思

いがけない事態を味わい、毎年イベント終了前に在庫が尽きるという事態が数年続きましたが、技工士会のブースで歯科医師会の皆さんに集客や受付などなどお手伝いいただき、おかげさまで1番の集客ブースとなりました。コロナ前には600個を用意予定でしたが、コロナ襲来でイベントもお休みに。現在は更なる飛躍を求め、新たなアイデアを模索中です。



それと同時に、歯科医師会が行う無料の歯科検診会場にてコーナーを設けて、入れ歯のクリーニング活動を同時に行っています。近年は健康志向の高まりか、来場される市民の皆さんは入れ歯が非常にキレイですが、しっかり洗浄して「これからもきれいに使用してくださいね！」と一言を添え、担当歯科医師、歯科衛生士さんと共に、来場者さんにお返しします。最近では20床越え、リピーターの市民の方も大勢いらっしゃいます。来場者の方に「今年も来たよ」と声掛けしていただけるのがうれしい！もれなく世間話のお相手が永遠と続きますが・・・それも楽しい時間です。このイベントを通じて、少しずつですが我々の歯科技工という職業、歯科技工士という裏方イメージからの脱却ができれば良いなあなんて勝手に思う私です。



我々の仕事は患者様の前に出ることは少ない方がほとんどでしょう。業界若年層の離職率も爆上がり！です。ね、このちょっと日陰なイメージから少しでも機会があれば、その場を生かして最大限にインパクトを与えられる活動を自身も楽しみながら積極的に参加し考案しながら歯科技工士という職業が光の当たる魅力ある職業へ変貌させることが我々（熟年層？）が後輩へ残していかなければならない使命であり、近道ではないでしょうか。歯科技工士の皆さんもっと前へ出ましょう！諸先輩が築き上げた岩見沢歯科技工士会これからも地域に根付いた活動して行きたいと思ひます。

● ● 「諸先輩に聞く」 ―感謝そして反省― ● ●

空知歯科技工士会 杉岡 範明

今年の6月18日を以って4期8年に亘り、務めさせていただきました公益社団法人日本歯科技工士会の代表理事を退任いたしました。

思い起こせば、私の歯科技工士会活動は、空知支部会の学術担当理事からスタートしましたので、35年に及びます。そもそも、私は未年生まれのお座ですから、人前に出て何かをしようなどということは最も苦手な性分で、出来れば誰かの後ろに付いて頼まれれば出来ることを尽くす、そんなネガティブな人間が本性だと信じていました。ですから、当時は歯科技工士会活動とは縁遠い、むしろその活動から避けた生活を望んでいました。



ただ、私はそれまでの人生を踏まえて、歯科技工士という職業に出会って救われたという強い思いがありましたので、「この職業を社会にもっと評価されるものにしなければ」、そして「次の世代が少しでも歯科技工士になって良かったと思えるようにしよう」という密かな信念を持っていました。もちろん、だからと言ってその実現のために具体的に何をすべきかなどを考えたこともありませんでしたが、その後、節目節目に出会った人達によって、私の人生は大きく変わって行きました。振り返っても出会った人達によって、私は育てられ、支えてもらい、充実した人生を送ってこられたことを心から感謝しています。

人の一生は限られた時間です。その時間をどのように使うかは人それぞれの価値観ですが、私は、社会の一員として打算なく他者のために尽くすことは大切なことだと思っています。

中央組織の役員を務めて感じたことは、偉大な先輩達の先見性でした。創立67年の歴史の重さと活動の継続は素晴らしい渉外活動のパイプを構築していただけていました。歯科技工士の社会的評価を高めるためには、法律や制度を変えなければなりません。そのための行政、国会議員、関係団体との太いパイプは他の医療技術者団体が目を見張るほどでした。ただ、それを持ってしても私の在任中、8年掛けても会員の負託に応えられなかったことは、リーダーとして重い責任があり心から反省しています。

前回の朝のNHK連続小説「ちむどん」の中で、沖縄の気骨ある曾祖母が「時代は変わる。先に逝く者が後に残る者の未来を縛ってはいけない」と話す名セリフがありました。まさにそのとおりだと思います。多くの出会いでここまでやってこられたことに感謝し、やってきたことは後世の評価に委ね、組織の更なる発展に一会員として残りの人生を捧げたいと思っています。

支えていただきました公益社団法人北海道歯科技工士会の皆様に心からお礼を申し上げます。



プロフェッショナル

札幌歯科技工士会 米塚 貴博

マイクロモーターエアノズル「スクラビー」

歯科の職域でCAD/CAMを使用することが一般化されCADで設計することが日常的になりましたが、私たちの身近にあるモノは、多くの場合CADソフトで設計されています。歯科のCAD使用で特徴的なのは、設計図面である【スケッチデータ】から形状を起こさず、スキャンデータや規定の歯牙モデルをフォームして操作していることにありますが、設計図面を起こすことを学習すれば様々なモノを作れるようになります。

例としてマイクロモーターに装着する空気圧冷却装置の設計をご紹介しますが、歯科あるあるの一つに研削作業で加熱された補綴物が熱くて持てられないということがありますよね。マイクロモーターから冷却空気が出る装置があれば継続して作業し続けられるので、これは不便解消のアイテムとして存在価値がありそうなモノです。



クラウンが研削により持てられなくなる温度はおおよそ55～60℃で、我慢して持てられる温度は50～55℃、その間の温度上昇時間はわずか1～2秒差しかありません。50～55℃でも2～3分触れていると低温火傷になりますので、我慢するのが当然とは言えないでしょう。上記のような冷却装置を使用して2気圧の冷却空気を当てた場合に、中研削では40℃代、仕上げ研磨では40～50℃代で継続的に作業することが可能となりました。



私たちは日常的にCADソフトで設計し、様々なマテリアルと3DP・CNCとデジタル準拠の加工方法にふれているわけですから、このように身近な不便解消を実現化する環境はあるわけです。技術の変遷や進歩に合わせて、私たちができることを見なおしてみるのも面白いかもしれませんね。

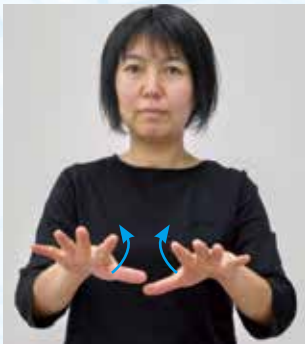
資料提供 札幌デンタル・ラボラトリー

● ● 歯科技工における手話表現・見える言葉 ● ●

札幌歯科技工士会 工藤 三重子

コロナ禍も三年目となり、世の中の情勢も大きく変わりつつある事を実感する昨今です。コロナ禍は社会の分断を促進させたと同時に、それによって人は人により支えられ、生かされていることを痛感された方も多いのではないのでしょうか。

今回は世界中が望んでいる「コロナ収束」を取り上げてご紹介します。

コロナ	収 束	
口形：ころな	しゅうそく	
		
左手「C」を作り、親指側に右手軽く握った状態で付け、掌を中心に開く。	両手指を開いた状態（広まっている状態）	徐々に開いた手指を軽く握る。（減少していく状態）

表題の「見える言葉」は単なる視覚情報としての意味ではなく、お互いの理解や歩み寄りにより成し遂げられるものです。一方向からでは「見える言葉」は成り立ちません。

真の意味での「見える言葉」は情報保障の一役を担う方、理解と関心を持つ方が必要です。北海道デフ歯科技工士協議会を中心として当事者である聴覚障害を持つ歯科技工士たちと共に皆さんのお力添えをいただきながら「見える言葉」をつくり上げて行きたいと願う日々です。

2022年度北海道デフ歯科技工士協議会主催歯科技工用語手話研修会は、会場またはオンラインで開催中です。その他にオンラインで土曜日20時より「歯の手話フリートーク」は希望者のみで行っています。詳しくは北海道歯科技工士会にお問い合わせください。



お知らせ

● ● 新型コロナウイルス感染症について ● ●

公益社団法人北海道歯科技工士会ホームページにて、情報を適宜掲示しています。 <https://dougi.or.jp>

● ● 北海道歯科技工士会メーリングリスト登録について ● ●

公益社団法人北海道歯科技工士会は、メーリングリスト構築並びにウェブを使ったセミナーを開催しております。まだ登録をされていない方は、公益社団法人北海道歯科技工士会ホームページにて、登録をお願いいたします。

<https://dougi.or.jp>

● ● 公益社団法人北海道歯科技工士会 Twitter(ツイッター)公式アカウント開設について ● ●

公益社団法人北海道歯科技工士会は、Twitter (ツイッター) 公式アカウントを開設いたしました。本会に関わる情報を発信していきます。最新の研修会案内も投稿します。是非、Twitter をインストールしていただき北海道歯科技工士会のフォローをお願い致します。



● ● 学術論文の募集について ● ●

公益社団法人北海道歯科技工士会は、歯科技工技能水準の向上と安全で安心な歯科補てつ物等の提供等により道民の健康増進に寄与するための公益事業として「学術優秀論文表彰」を行っております。下記のとおり「学術論文の募集」を行いますのでご応募下さい。

- 目的：歯科技工士ならびに歯科技工士学生の学術研鑽意欲の向上を図る目的で、応募のあった中から最優秀論文を選考し表彰する。
- 対象：北海道で就労している全ての歯科技工士および北海道内の歯科技工士養成機関の本科学生および専攻科等の学生。
- 論文内容：歯科技工技術知見に係わる全般で、文字数および図表等の枚数に制限はありません。
- 募集期間：2023年1月～2023年12月まで。
- 選考方法：応募期間中に寄せられた論文は、外部選考委員も含めた3名の選考委員によって最優秀論文を選考、決定します。
- 副賞：最優秀論文受賞者には、さらなる学術研鑽を積まれるように副賞を授与します。

■選考委員

【外部選考委員】北海道大学大学院 歯学研究科 横山 敦郎 教授
北海道医療大学 歯学部 越野 寿 教授

【内部選考委員】公益社団法人北海道歯科技工士会 扇 照幾 会長

■お問い合わせ先：公益社団法人北海道歯科技工士会 事務局

〒001-0037 札幌市北区北37条西4丁目3-8

TEL (011) 717-7155 FAX (011) 717-6954

e-mail dougi@abelia.ocn.ne.jp

● ● 理 事 会 報 告 ● ●

2022年度 第2回理事会議事録

日 時 2022年6月11日(土) 18:00～18:00

場 所 北海道歯科技工士会館

1 会長挨拶

先月開催された第9回社員総会は実に2年ぶりとなる対面形式での開催となった。2週間経過した現在、心配されていたコロナウイルス感染の報告は届いておらず大変安堵している。今回の理事会は本年度事業計画の確認作業が中心となる。これから開催予定の学術関連事業では理事一丸となって開催に向けて準備を進めて貰いたいという主旨の挨拶があった。

2 承認事項

事業および派遣役員承認の件・・・【承認】

入会者及び退会者承認の件・・・【承認】

3 報告・協議事項

(1) 全般

第9回社員総会報告について

「第9回社員総会報告」として道歯技広報25号と道技ホームページへの掲載の報告。

(2) 生涯研修

ア 第66回北海道歯科技工学術大会(札幌)の大会プログラム(案)の報告。

イ 第66回北海道歯科技工学術大会予算(案)について報告。

ウ 第162回北海道歯科技工学術研修会について日程および講師依頼の報告。

エ 第162回北海道歯科技工学術研修会予算(案)について報告。

オ 第75回北海道歯科学術大会DTテーブルクリニックにおいての発表者依頼について説明があり、若林理事が発表者に決定したと報告。

(3) 広報

ア ホームページの更新について報告。

イ 道歯技広報25号(2022 夏)について報告。

ウ Twitterの更新について報告。

(4) 受託技工

令和4年度診療報酬改定講習会(4月17日札幌市、5月14日函館市)について報告。

(5) 総務

ア 2022年度第1回理事会議事録について報告。

イ 第9回社員総会議事録について報告。

ウ 離島派遣事業について、今年度の歯科診療班員の委託は高際兼治氏に決定し、天売地区・焼尻地区の両島を担当する旨の報告。

(6) 財務

5月期の執行状況について報告。

(7) 就労対策

5月末組織現況について報告。

(8) その他

ア 2021年度北海道アソシエーション歯科技工士協議会総会について報告。

イ 保険福祉部(補助金の額の確定)について報告。

ウ 保険福祉部(補助金の交付の決定)について報告。

エ 歯科医師会(在宅療養支援サポート研修会)について、開催周知依頼の文書を含めて報告。

公益社団法人北海道歯科技工士会 2022年度第3回理事会議事録

日 時 2022年7月9日(土) 18:00～19:00

場 所 北海道歯科技工士会館

1 会長挨拶

世界における新型コロナウイルスは、BA.4系統及びBA.5系統の占める割合が増加しており、これまでのウイルスよりも感染性が高いとされるオミクロン株の「BA.5」ウイルスが初めて半分を超えた。全国の新規感染者数は、直近では今週先週比は2倍以上と急速に増加している。オミクロン株のBA.5等の系統への置き換わりが進んでいること等を踏まえ、今後の事業にあたっては引き続き、感染防止策の強化・徹底に努めてほしい。各理事者におかれては、体調管理を徹底し、感染リスクの低減に向けた取り組みをお願いしたいという主旨の挨拶があった。

また、第26回参議院通常選挙には、投票を行うよう各位に促した。

2 承認事項

事業および派遣役員承認の件・・・【承認】

入会者及び退会者承認の件・・・【承認】

3 報告・協議事項

(1) 全般

日本歯科技工士会 第11回社員総会報告

第11回社員総会(2022年6月18日)について、特に「第3号議案の理事及び監事選任の件」の選挙結果について報告。

(2) 生涯研修

ア 第66回北海道歯科技工学術大会(札幌)(2022年7月23日)について、タイムスケジュール等の報告。

イ 第162回北海道歯科技工学術研修会(岩見沢)(2022年9月10日)について、担当組織会長は講演場所に来場し挨拶を行う件、講師からの抄録が到着しだいプログラムの製作に取り掛かる旨の報告。

ウ 第163回北海道歯科技工学術研修会(釧路)(2022年10月29日)について報告。

エ 第164回北海道歯科技工学術研修会(苫小牧)(2022年11月19日)について、開催日程案と講師選定中である旨の報告。

(3) 広報

ア ホームページの更新について報告。

イ 道歯技広報25号(2022 夏)について報告。

ウ Twitterの更新について報告。

(4) 総務

ア 2022年度第2回理事会議事録について報告。

イ 公益法人informationへの申請を6月27日に行ったとの報告。

(5) 財務

6月期の執行状況について報告。

(6) 就労対策

6月末組織現況について報告。

(7) その他

ア 日技理事会について報告。

イ 北海道歯科技工士会 会館修繕について見積りをもとにほかの業者にも見積りを依頼し業者を選定していきたいとの報告。

ウ 日技 学術担当実務者を西川副会長で氏名報告すると報告。

エ 日技 新役員名簿について報告。

公益社団法人北海道歯科技工士会 2022年度第4回理事会議事録

日 時 2022年9月3日(土) 18:00～19:00

場 所 北海道歯科技工士会館

1 会長挨拶

先般開催された第75回北海道歯科学術大会においてDTテーブルクリニックで講師をつとめた若林理事に労をねぎらうとともに素晴らしい講演だったと報告された。

また直近の研修会、下半期に向けての事業を協議し確定していかなければならない事案があるので各担当の立場からの意見を聞きすすめていきたいとの挨拶があった。

2 承認事項

事業および派遣役員承認の件・・・【承認】

入会者及び退会者承認の件・・・【承認】

役員選挙管理委員会設置承認の件・・・【承認】

3 報告・協議事項

(1) 全般

ア 2022年11月5日(土)に開催予定の地域組織会長懇談会にむけて2023年度各部事業計画の資料作成および提出について報告。

イ 2022年11月5日(土)に開催予定の地域組織会長懇談会にむけて2022年度各部事業中間報告の提出について報告

ア、イについてj-mottoで各担当理事に資料作成、提出依頼を回覧するとの報告。

(2) 生涯研修

ア 第66回北海道歯科技工学術大会(札幌)(2022年7月23日)について報告書より当日の準備状況や参加人数、進行状況や講演について報告。

イ 第163回北海道歯科技工学術大会(札幌)(2022年7月23日)決算書より報告。

ウ 第162回北海道歯科技工学術研修会(岩見沢)(2022年9月10日)についてタイムスケジュール等を派遣役員に後日回覧するとの報告。

エ 第163回北海道歯科技工学術研修会(釧路)(2022年10月29日)プログラム、講師旅程について協議した後に決定した。

オ 第164回北海道歯科技工学術研修会(苫小牧)について、開催日程案(2023年1月案)と開催会場を苫小牧歯科技工士会と打ち合わせをし、講師選定中である旨の報告。

(3) 広報

ア ホームページの更新について報告。

イ 道歯技広報の原稿依頼について報告。

ウ Twitterの更新について報告。

(4) 受託技工

診療報酬改定講習会(十勝)(2022年11月19日)開催にむけて日技への単位申請および講演内容について報告。

(5) 総務

2022年度第3回理事会議事録について報告。

(6) 財務

8月期の執行状況について報告。

(7) 就労対策

8月末組織現況について報告。

(8) その他

ア 日技理事会について報告。

イ 北海道歯科技工士会 会館修繕について見積りをもとに業者と連絡を取り修繕内容を検討しているとの報告。

ウ 第74回北海道公衆衛生学会協賛金、広告掲載の協力について報告。

エ 第75回北海道歯科学術大会プログラム内広告について報告。

編集後記

テーマ「クリスマス」

●クリスマスといえば、チキンですね。みなさんはどこでチキンを買われますか。学生時代にコンビニでアルバイトをしていましたが、クリスマスはチキンをひたすら揚げて販売していました。コンビニのクリスマス用のチキンも美味しいですよ。宜しければ買ってみてください。

●クリスマスが近づくと未だにワクワクします。デパート、スーパーでチキンの丸焼きがグルグル回っていましたね。ものすごく美味しそうで、すごく特別なものに見えました。今年もいただきます。

●12月になると、年末年始にむけて忙しいのと慌たしいので何かと落ち着かないことが多い中、クリスマスは楽しい気持ちになります。子供たちにプレゼントを用意したり、何を食べるのか決めたり…
そういいながら、何の変化もなく毎年同じもの食べている我が家でした。今年も同じかな…

●12月に入ると、CMなどでクリスマスソングが流れ始めます。マライアキャリーの「恋人たちのクリスマス」のメロディーを聞いただけで、なぜか不思議と気分が上がります。今年もまた、誰かの新しい名曲が誕生するのを楽しみにしています。

●シュトーレンをご存じでしょうか？ドイツではクリスマスの定番のお菓子です。私はここ数年、毎年購入しています。生地の中に、ラム酒につけたドライフルーツやナッツが練り込まれ、クリスマス・イブの4週間前からイブまでに、薄くスライスして少しずつ味の変化を楽しみながら食べます。最近ではパン屋さんやお菓子屋さんなどでクリスマス時期に購入できますので、是非一度、お試しください。

●クリスマスの永遠のテーマ『サンタさんは実在するのか・・・』

12月になると「そんなことばかりしているとクリスマスにサンタさん来ないわよ・・・」という親からの脅し。毎年何度聞いたかわからない。小さい頃サンタさんはいると信じていた私は、本気でヤバイと焦ったものです。実は今でも信じています。クリスマスにはどこかの街の誰かに幸せを運んでくれていると。今年は、私のところにもきてくれないかなあ

広報委員会 メンバー

長口 睦好・廣田 高志・村上 珠緒
若林 侑輝・佐々木英世
オブザーバー 千葉 真一 (HP 担当)



公益社団法人 北海道歯科技工士会 活動・会員特典紹介

講習会・研修会の開催

厚生労働省後援の「歯科技工士生涯研修認定」
学術大会(年1回)学術研修会(年3回)をはじめ、
実技研修会・各セミナーを開催しています。
(Webによるハイブリッド開催も多数行っています。)
会員は基本受講料1,000円で参加できます。
(卒後3年以内の会員は無料)



情報提供

日本歯科技工士会が発行する「日本歯技」(毎月)のほかに北海道歯科技工士会が「道歯技広報」(年3回)を発行しています。
歯科技工に関わる最新の情報をホームページの会員限定ページやTwitterにて、随時、情報発信しています。

歯科技工士仲間や関係団体との交流

各地域歯科技工士会において、地域歯科医師会・歯科衛生士会との共同行事や歯の健康週間をはじめとする市民貢献イベント等、様々な行事やボウリング大会・ゴルフ大会等、レクリエーションが行われています。



厚生労働省や関連団体との交渉窓口

歯科技工業界のさまざまな問題を交渉し、歯科技工の職業・生活水準向上のため、全力で取り組んでいます。また、診療報酬改定などの情報をタイムリーに発信しています。

慶弔制度の充実

長寿祝金・出生祝金・死亡弔慰金・高度障害見舞金・火災見舞金・災害見舞金など慶弔制度が充実しています。

お近くに、まだ未入会の歯科技工士の方がいらっしゃいましたら是非ご案内ください。

ホームページ <https://dougj.or.jp>

Twitter公式アカウントのフォローをお願いします。



公益社団法人
北海道歯科技工士会
Hokkaido Dental Technicians Association

